

今晚 3月25日(金)

夜7時より
市民館3階



ミンナデ ツクル ミンナノ カイカン

お盆には
1万円にぎって、
三角公園にあつまろう

夜間学校ニユ

釜ヶ崎夜間学校
西成区萩之茶屋2-5-23
釜ヶ崎解放会館3階
釜日労・争議団気付

団結を言葉だけでなく

具体的な行動で固めよう

釜ヶ崎働く者の家”建設運動

夜間学校は以前にーとい
つてもとり昔のことではな
く、一ヶ月程前のこと、釜

ヶ崎共和国運動、その領土
としての、会館”獲得運動
を皆で話し合いました。

その結果、働く者の会館
が必要であることは確認さ
れ、ニュースの発行のた
び、お盆には一万円にぎっ

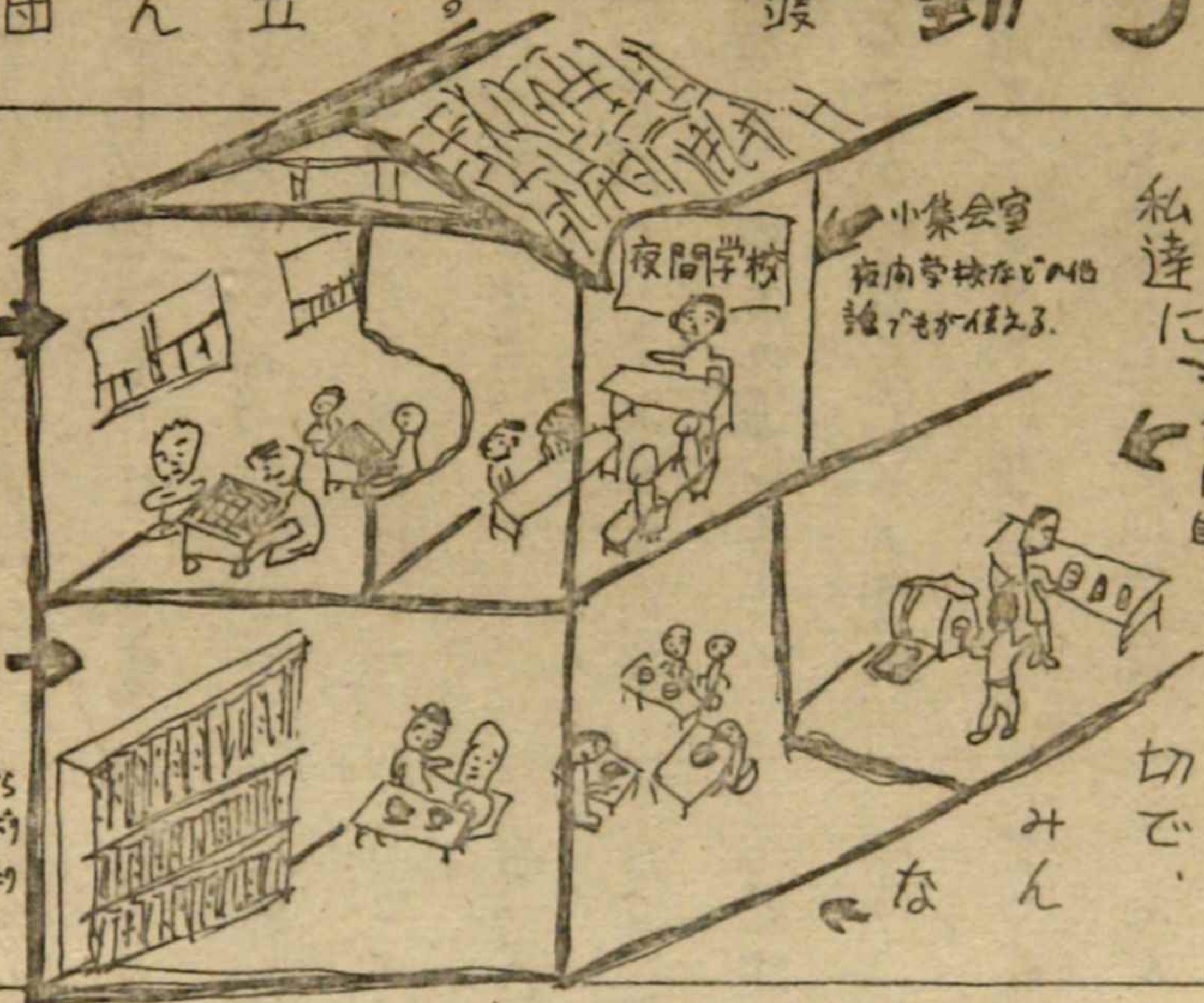
て三角公園に集ろう”と呼
びかけています。気の早い
人は、すでに、千円ずつ、

二回、夜間学校の時に手渡
してくれています。

団結の形・感覚?

そもそも我々が会館設立
の話は、夜間学校でいろん
な問題を話し合うにつけ団
結が必要だ、という声が多
くである、というところから
出てきたものです。

「団結」と口に出している
ことは簡単なのですが、結
局、それはどんな情態のこ



となのか、どういふ人とな
の結びつき方なのか、また
どうすれば、団結できたり、
深まったりするのか、あま
りはつきりしていません。

でも、
それが、
私達に、
共同作業場
印刷機などがある。
自分達で本や
パンフレットを
作ることで、
切で、
みんな
な

が望んでいるものであるこ
とは確かです。

六千五百円追放!

いかに、センターで、釜日労
争議団を軸にみんなの参加

を得ておこなわれきました。
あの斗いこそが、団結の
具体的な形と感覚をあらわ
していたのではないでしょ
うか。

手配師やオヤジをマイク
の所までつれて来て、みん
なで賃上げをせまる。ある
いは旗を先頭に、バスのと
ころまでおしかけ、賃上げ
をせまる。

その時、手配師やオヤジ
を追求する人の輪に加わっ
た人、要求の声をあげた人、
そのまわりで見守もってい
た人、あそこはまだ六千五
百円やでとおしえた人、こ
ばらく仕事に行くのをひか
えた人。

一つの目的のために、そ
れぞれが身体を動かした、
動かしている情態が、団結
のもっとも強い形(ウラウラ動く)

だと思えます。

二日、三日と、オヤジを囲んで要求をする。だんだん、センター全体がお祭りの会場のようになりウキウキしてくる。と私には感じられました。あなたはどのように感じたか。

この一人一人の体の動きが、一つにまとまって大きな全体の動きとなり、体を動かすものも見守っているものも、なんとなく陽気になる、というのが団結の感覚だろうと思います。

団結の日常的な形成

一年三六五日、毎日、センターでオヤジや手配師をつるくあげることにはできにくいことです。一年のうち、^{毎月}二十日から三十日ぐらゐのものですよ。

それ以外の日々は、私達に団結はないのでしょいか。あるいは、団結の力は弱っているのでは

しょうか。

話合いのたびに、なんとか団結しなければ、という声ができる場所をみれば、ごりぞら、そのようです。

さきほど、団結は、一つの目的、目標のもとにする、個々人の身体の動きの集まり、総和だ、いいました。

私達は毎日、身体を動かしています。現場での仕事は別にして、仕事から帰って寝るまでの間、あるいは、アブした日、休んだ日に、本を読んだり、酒を飲んだり、ギャンブルをしたり、喫煙店で話をしたり。

それらの身体の動きは、同じ身体の動きでも、幾らより集っても団結にはなりません。釜ヶ崎の日雇労働者の日常生活”といわれるものに他なりません。同じ様な生活体験や生活様式は、団結の基礎とはなりませんが、

のですが、それぞれのものでは、目的、目標を達成する力とはなりません。

個々別々に、あるいは数人の仲間ですごしている時間を、もつとひろがりのあるものにして、自分達の日常生活も、有意義で団結の感覚を持ってすごせるものにする。その為には一つの“場”が必要です。

“会館”を“場”としてみんなの生活が重なり、密度の濃いものとなる。そこから力としての団結が生まれ、思えます。

私達がつくろうとしている会館について、それができるときの意味、使い方などを共に考えてみませんか。
“会館”建設運動は、釜日労、争議団の中に、“会館”建設委員会ができて、釜ヶ崎医療連絡会、釜ヶ崎夜間学校、創造広場、労働者救世館集会所などが参加

を決めています。また、キリスト教越冬委員会も、会館建設に協力する方法が、内部で検討されています。

六千五百円追加の斗いに、様々な参加の形があったように、“会館”建設の運動についても、様々な参加のしかたがあると思います。一つには、建設労働者委員会をこしらえて、積極的に身をのりだすことが考えられます。

“釜ヶ崎働く者の家”（仮称）は、やはり、釜で働くものが中心となつてつくられなければならぬ。みんなが、知恵とゼニをださず、つて、名実ともにリップなものをこしらえようではありませんか。計画の段階からの参加を訴えます。
※前回、夜間学校は、希望の家がおこなわれました。寿事件を個人個人の反省として考えるのではなく、全体とのつながりで考えることが確認されました。